



概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Central リリース 1.4 のインストール, 1 ページ](#)
- [Cisco UCS Central リリース 1.4 へのアップグレード, 2 ページ](#)

Cisco UCS Central リリース 1.4 のインストール

Cisco UCS Central リリース 1.4 をインストールするには、次のオプションのどちらかを使用します。

- **スタンドアロンモード**：スタンドアロンインストールでは、リリース 1.3 以前と同じ方法で仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールできます。
- **クラスタモード**：クラスタインストールは、管理環境をさらに安定させます。クラスタインストールを使用して、フェールオーバーおよびハイアベイラビリティを有効にするにプライマリおよびセカンダリ ノードに Cisco UCS Central をインストールします。

ハイアベイラビリティのためにクラスタモードで Cisco UCS Central をインストールする場合、2 台の仮想マシンに Cisco UCS Central をインストールします。両方の仮想マシンに必要な要件は次のとおりです。

- 同じサブネット上にある
- 同じ仮想 IP アドレスを共有する
- 同じ共有ストレージを共有する
- Cisco UCS Central の同じリリースバージョンを実行しなければならない

これらの一方がプライマリ ノードで、他方がスタンバイ ノードです。プライマリ ノードがダウンした場合、スタンバイ ノードは最小限の中断で引き継ぎます。クォーラム情報は登録された Cisco UCS ドメインに保存されます。

共有ストレージ：スタンドアロンモードで Cisco UCS Central をインストールする場合、追加の共有ストレージ（Raw Lun）を使用できます。スタンドアロンインストールをクラスタセットアップに変換する場合、共有ストレージと同じストレージを使用できます。

リリース 1.3 以降、高可用性を実現する Cisco UCS Central のクラスタインストールでは、共有ストレージのために RDM ではなく NFS のサポートが必要です。

Cisco UCS Central リリース 1.4 へのアップグレード

Cisco UCS Central リリース 1.4 にアップグレードする際は、スタンドアロンモードまたはクラスタモードにアップグレードできます。Cisco UCS Central 機能は、スタンドアロンモードとクラスタモードで同じです。



重要

Cisco UCS Central をアップグレードする前に、登録済みドメインが Cisco UCS Manager のサポートされているリリースバージョンにアップグレードされていることを確認します。Cisco UCS Central リリース 1.4 には、Cisco UCS Manager リリース 2.1(2) 以降が必要です。Cisco UCS Central をアップグレードする前に Cisco UCS Manager をアップグレードしなければ、すべての登録済み Cisco UCS ドメインはアップグレード後から Cisco UCS Central アップデートの受信が停止されます。

Cisco UCS Central を 1.4 にアップグレードする前に、次のことを実行する必要があります。

- Cisco UCS Manager が 2.1(2) 以降であることを確認します。完全な機能サポートを保証するために、Cisco UCS Manager を最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。
- リリース 1.0 または 1.1 から Cisco UCS Central をアップグレードする場合は、まず Cisco UCS Central 1.2 にアップグレードしてから、リリース 1.4 にアップグレードする必要があります。Cisco UCS Central リリース 1.0 または 1.1 をアップグレードするには、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-central-software/products-installation-guides-list.html> を参照してください。

サポートされるアップグレードオプション、要件、手順については、[Cisco UCS Central のリリース 1.4 へのアップグレード](#)を参照してください。